

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目で150分  
現代システム科学域、生活科学部は1科目で90分

## 解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

論述問題の字数がやや減少したが、昨年は出題されなかった計算問題が複数出題された。

## その他トピックス

特になし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述 論述	遺伝 発生	生物	問3 皮膚は外胚葉由来の表皮と中胚葉由来の真皮からなるが、「3つの胚葉のうちの1つに由来する」と設問文にあるので、外胚葉性の組織・器官を解答とした。 【3月2日追記】3月1日に大阪公立大学から、出題ミスについて発表があった。	標準
第2問	選択 論述	生殖 植物の環境応答	生物	問4(1) 子葉の重さはデンプンの蓄積から判断する。 問4(3) 突然変異体の種子の発芽率と胚軸の長さが野生型と同じであったことから、突然変異体はフォトトロピンが欠損していると考えられる。	標準
第3問	空欄補充 選択 記述 論述 計算	筋収縮 呼吸	生物	問4(2) 呼吸で1分子のグルコースが分解される時、解糖系とクエン酸回路では合わせて10分子のNADHと2分子のFADH <sub>2</sub> が得られるとともに、合わせて4分子のATPが生成されることから計算する。	標準
第4問	選択 計算	個体群	生物	問5(1) 植物や動かない動物については、標識再捕法より区画法が適している。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

知識問題については、教科書を中心とした基本的な学習と、標準的な問題の演習を行おう。様々な分野から出題されるので、今年はお題されなかった恒常性・免疫・神経・進化などの分野もしっかり学習しておこう。論述問題で差がつくので、典型的な知識論述問題については確実に得点できるように練習しておこう。50～100字程度の論述問題を目安にして練習するのが良いだろう。大阪府立大学の過去問を演習する場合は問題ないが、大阪市立大学の過去問は論述量が多く、字数指定がないので気をつけよう。